

第2セッション「EBPMの更なる展開のために」

慶應義塾大学総合政策学部 中室牧子

事例①「トビタテ！留学JAPAN」の効果検証（文部科学省と共同で実施）

- 文部科学省は、2013年以降、若者の留学支援の目的で、官民協働の「トビタテ！留学JAPAN」をローンチ。2017年度からデータ収集を開始し、効果検証を実施する。対象者が帰国後もフォローアップ調査を継続。
- 留学に行った学生の前後比較では正確な留学の効果を測ることができないため、選考時のスコアを使った「回帰不連続デザイン」により、ぎりぎり選考に受かった学生と落ちた学生を比較。
- 「トビタテ！留学JAPAN」に合格することによって、留学する確率は77-80ポイントも上昇し、英語力は1.15-1.35SD（33～38%）も上昇した。国際志向性や外国語コミュニケーション能力の認知も改善していた。

（論文）Higuchi, Nakamuro, Roever, Sasaki and Yashima, forthcoming in *Journal of the Japanese and International Economies*, Impact of studying abroad on language skill development: Regression discontinuity evidence from Japanese university students.

事例②「黙食」の効果検証（千葉県教育庁と共同で実施）

- 千葉県は2022年12月に「学校における感染対策ガイドライン」を改訂し、「教育的な配慮の観点から、黙食の見直しを行うことが適切である」として、換気等を徹底したうえで、黙食を解除する方針を市町村教育委員会に指示。2023年2月には、小・中学校の学級閉鎖の発生頻度を独自に算出し、「黙食を見直した学校と継続した学校の間で明確な差を確認できなかった」ことを報告。
- この報告にも関わらず、SNSを中心に、なお黙食見直しが感染拡大につながることを懸念する声があがる。そこで千葉県教育庁からデータの提供を受け、外部評価を行うことに。
- 差の差の分析手法（difference-in-differences）と双方向固定効果モデル（two-way fixed effects model）と呼ばれる手法を組み合わせ、黙食見直し以外の要因の影響を取り除いたうえで、黙食見直しの影響を推計。黙食が学級閉鎖に与えた影響は限定的との結論。

（論文）Takahashi, Igei, Tsugawa, and Nakamuro, forthcoming in *RIETI Discussion Paper*, The effect of silent eating during school lunchtime on COVID-19 Outbreaks.

